

小児がん経験者の移行支援 “おとなになっていく” を応援する医療

シンポジウム

🌰 「理想の長期フォローアップは、続けられるのか？」
ー小児がん経験者を支える医療を、患者・医師・経営者の立場から考えるー」
寺田 和樹（医療法人社団千秋双葉会 いなげ未来クリニック院長）

🌰 「小児がん経験者の成人期の健康管理について
一緒に考えてみませんか？」
前田 尚子（国立病院機構名古屋医療センター小児科医長）

🌰 「経験から感じたこと」
浜田 雅也（株式会社イトーキ）

🌰 「生きるって大変だねえ（仮）」
清水 聡

司会：前田美穂・岩井艶子（子どもと家族のQOL研究センター）



日時

2026. **10.18** (日) 13:30～16:00

会場

Zoomオンライン開催（予約制）



一般社団法人 子どもと家族のQOL研究センター
QOL Research Center for Children and Family

開催概要

小児がん医療は目覚ましい発展を遂げて参りました。不治の病と言われた時代を経て、今や9割ほどの患児が治癒するまでになりました。しかしながら、小児がん経験者ががんの治療を終えたあとの長い人生（ライフサイクル）において、さまざまな困難や課題に直面する不安があることも忘れてはなりません。それは健康面の管理を自分ですることであったり、進路やキャリアデザインのことであったり、おつきあいや自分の家族を形成していくことだったりするかも知れません。この“おとなになっていく”を応援するために、私たちは何ができるのでしょうか？ 2026年度秋季シンポジウムでは、小児科のお二人の先生と小児がん経験者のお二人にご登壇いただき、移行支援のあり方を考えてみたいと思います。

シンポジスト

寺田 和樹（医療法人社団千秋双葉会 いなげ未来クリニック院長）

15歳で急性骨髄性白血病を発症し、治療を受ける。日本医科大学医学部卒業後、成田赤十字病院小児科に勤務し、副部長として小児がん診療に携わる。2022年、高校生活を過ごした地でもある千葉県・稲毛駅近くに、いなげ未来クリニックを開院。日本で初めてとなるクリニックでの長期フォローアップ外来を設立し、小児がん経験者の診療・支援に取り組んでいる。現在は医療法人社団千秋双葉会の理事も務め、クリニック経営にも携わっている。



前田 尚子（国立病院機構名古屋医療センター小児科医長）

1989年名古屋市立大学医学部卒業 名古屋市立大学医学部附属病院、聖隷浜松病院、名古屋第一赤十字病院などを経て、2003年より名古屋医療センター小児科に勤務。小児がん治療や小児がん経験者のフォローアップに従事。JCCG（日本小児がん研究グループ）長期フォローアップ委員としても活動を続けている。

浜田 雅也（株式会社イトーキ）

1999年生まれ。幼少期に小児がんを経験し、2024年に、晩期合併症により、腎臓移植手術を実施。2017年に製造業として就職し、現在も変わらず勤務している。



清水 聡

1995年生まれ。2歳の時に緑色腫と診断、治療開始（1年くらい）。治療後10年で慢性GVHDの徴候が出てきた為、対症療法開始。直近の10年は急性膵炎の為、1回/年で入院。現在は無職。

参加登録

対象：小児がん経験者とご家族の方、小児がん経験者を応援している医療者、心理職、保育士、教師、学生の皆さん、就労支援・人事担当の方など

定員：100名（先着順）

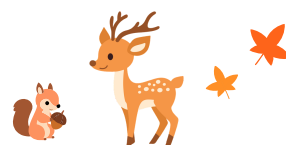
登録期間：2026年9月21日（月）～ 10月16日（金）17時（予約制）

登録方法：右記QRコードからお申込みください（Peatix： <https://qrccf-2026autumnseminar.peatix.com>）
※ Peatixへの登録が必要です

参加費：無料

※ ご寄付も歓迎します。小児がんの啓発事業に活用させていただきます

※ Zoom用URLは、10月16日（金）18時頃にPeatixにてお知らせします



お問い合わせ
ご連絡

QRCCF事務局へのご連絡は
右記QRコードからお願いします

